

ICTを活用した教育・オンライン教育に係る効果検証について（案）

令和2年10月26日 長野県・三重県

1 趣旨

学校におけるICT環境の整備が進められる中、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業期間において、各校では生徒の学びを継続する手段として、ICTを活用した教育・オンライン教育の導入が進められた。今後は、これらの学びに係る効果を検証するとともに、高等学校における「1人1台端末整備」や「家庭での端末活用」に向けて、オンライン教育、ICT環境の活用方策に係る検証について検討を進める必要がある。検証にあたっては、学校での円滑な実施を図りながら、第1段階の検証として、以下のICTを活用した学びの効果検証に係る実証事業等を実施する。

2 効果検証の方法等

○ 実施県 長野県、三重県、「これからの高等学校教育のあり方研究会」委員県のうち実証事業を希望する県

○ 内容 ① ICTを活用した学びの効果検証

Qubena（A Iドリル）を活用した授業を複数の単元で実施し、活用クラスと非活用クラスの比較（単元テスト等）を行う。

- ・ 対象校 各県3校程度
- ・ 対象生徒 1年次生（2年次生も可）
- ・ 対象教科 1教科から2教科（数学、外国語を想定）
- ・ 調査期間 令和2年11月以降1～2カ月程度

【例】

数学	単元A	単元B
△△クラス	活用	非活用
□□クラス	非活用	活用

※A Iドリルについては、原則として授業時間に活用する。

※同一校のクラス間において比較を行い、効果検証を行う。

※中室研究室の研究事業の一環として、検証も含めた実証事業を行い、A Iドリルの費用に係る学校の費用負担は生じないこととする。

②経済産業省「未来の教室」実証事業（H30～）のデータ活用

学校と民間事業者が連携し、EdTech サービス（A Iドリル等）を学校の授業や家庭学習等に導入、教育課程がどのように再編されうるか実証する事業。当事業のデータ蓄積（学習時間や成績分布の推移等）の活用について、中室研究室と連携し検討。

③ICT、オンラインの活用に関する実態調査

休業中・コロナ後のオンライン教育に関する課題や要望について、学校へ調査。調査項目等は中室研究室と連携し作成。

3 今後について

今回の取組は、オンライン教育の効果検証全体（インタラクティブ授業の検証等）の一部、第1弾の位置づけ。全体の効果検証は、課題として国へ問題提起等検討。